

岡谷市議会 経済建設委員会 行政視察報告書

【総体事項】

1. 視察日程：平成22年7月14日（水）～16日（金）
2. 調査事項（視察先）
 - （1）葉っぱビジネス 「彩（いろどり）」について（徳島県勝浦郡上勝町）
 - （2）光のまちづくり事業について（徳島県阿南市）
3. 視察参加委員

委員長	齋藤美恵子
副委員長	八木敏郎
委員	征矢久
委員	浜幸平
委員	杉村修一
委員	三沢一友

1. 調査事項

葉っぱビジネス 「彩 (いろどり)」について (徳島県勝浦郡上勝町)

人口：約1,800人 面積：約110km²

(視察事項)

紅葉、柿、南天、椿の葉っぱや梅、桜、桃の花などを日本料理のつま物として販売する農業ビジネスについて視察。

2. 視察日時 平成22年7月15日(木) 9:30~12:00

3. 参加者所感

- 過疎と高齢化の進む中で、ただ単に儲かればという発想でなく、高齢者であっても住民一人ひとりが主役となり、働ける場所を模索していた若き農協職員の発想により実現した事業である。商品管理は大変だが高齢者が元気で働ける印象を大変強くした。
- 農業が壊滅的打撃を受けた後、農家、農協、町等が、まちづくりとは何か。町の活性化との課題を「次世代を担う若者定住」と位置づけて取り組み、新たな着目・発想から失敗や困難を乗り越えて立ち上げた事業で、20代の若さとパワーで取り組んだ代表者の個人的な英知と努力に負うところが大きい。何事も粘り強く取り組む人物が出てくることで、その事業が成功するかの重要な鍵となることを痛感させられた。
- 農協職員であった代表者の発想についてきた人が4人いた。1人のある意味、個性のある人材が強烈なリーダーシップをとる。そこに何人かが付いていく。岡谷市においてもそんな事業展開を期待する。
- 高齢者でも使えるマウスを開発し、キーボードを使わずにファンクションボタンを押すだけでネットにつながるようになっているなど、様々な工夫がある。
- 高齢者も仕事が出来、少しでも所得が得られれば素晴らしいし、また生きていく張り合いが生まれてくると思う。
- 上勝町は、「ゼロ・ウェイスト」で存在を知り、以前より非常に興味を感じていた。今回の視察目的である葉っぱビジネスは、新たなビジネスモデルとして注目すべきものと感じる。まちづくりの手法は様々と思うが、高齢化社会を向えているなかで、高齢者は生き生きと過ごすことができるまちづくりが不可欠である。

1. 調査事項

光のまちづくり事業について（徳島県阿南市）

人口：約75,800人 面積：約279km²

（視察事項）

中心市街地の空洞化が顕著になってきている中、賑わいを取り戻す為の「光のまちづくり事業」の内容について視察を行った。

2. 視察日時 平成22年7月15日（木） 14：30～16：30

3. 参加者所感

- 事業の効果として、「光のまち阿南」のPRに大きな効果、イベント期間中に10万人の集客、中心市街地（富岡商店街）の活性化、LED産業に係わる起業家（光環境デザイン等）を生み出し、阿南市の産業に大きな影響を得るなどがあるとのこと。良い企業があって、行政、住民の力で行われている事業だと思う。
- 年々改良されて技術が高まっている発光ダイオードを利用したイルミネーションで夏・冬だけでなく1年を通じて夜空を彩るまちづくりを進めており、新たな夢を創り出そうと取り組んでいる。
- イベントで集客しても、商店街の各店舗が何もしなければ、売り上げは上がらないが阿南市では、各商店街が連携し地域住民を巻き込んで活性化が図られている。地域内外への幅広いPR活動、人材確保、体制の充実、時代のニーズにあった観光と商業が一体となるまちづくりの推進が必要と感じた。
- LED技術生産の中で岡谷の技術とコラボが出来るような気がする。